

1 提案者 野本 聡 (千曲市立五加小学校)

2 提案内容

- (1) 単元名 天気の変化 (2)
- (2) 利用した番組「ふしぎがいっぱい 5 年～台風はどこへ?～」  
動画クリップ「気象衛星から見た雲の動き」など
- (3) 授業のねらい

台風の被害について知り、台風の進路の予測が被害を減らすことにつながることを学んだ子どもたちが、台風の想定される進路を予想する場面で、雲の動きの動画を視聴したり、他の児童の意見を聞いたりすることを通して、台風の動きと台風に対する備えについて考えることができる。

(4) 授業の実践記録

段階	学習活動	児童の様子	指導・助言	備考
導入	1 動画を閲覧し、台風の動きについて考える。	「稲刈りの日 (9月27日) は暑くて大変だった。」 「台風14号が発生したって、ニュースやってたよ」	直近の天気の様子を聞いたり、翌日の天気予報などの話をしたりする。 「ふしぎがいっぱい5年 台風はどこへ」を全体で視聴する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習問題：台風はどのように進むだろうか。</div> 番組内での台風の動きと違うのか、同じになるのか考えている。	資料として、番組HPの動画クリップ、令和元年台風19号の進路の情報等、活用してよいことを伝える。	
		学習課題：資料を集め、台風の動きを予想しよう。		
展開	2 資料を収集し、台風の動きを予想する。	Chromebook を使い、各自で動画クリップ等を閲覧する。 活用していた資料 ・NHK for school 番組内の動画クリップ ・tenki.jp 内の気象衛星の映像 (過去12時間分動画) ・「台風」での検索結果 (Wikipedia など) 「季節によって、台風の進路って違うんだよ」 「10月頃の雲の動きの動画では、台風は沖縄のあたりで東に曲がっている」	次の条件で考えることを伝える。 ・9月30日に日本の南海上で発生し、10月2日にフィリピン東沖にある台風について考える。 ・3連休に、どのような影響があるか考える。 できた生徒はロイロノートの課題カードに予想進路と長野県での災害の予想を記録し、提出ボックスに提出する。(提出ボックスは共有にしておく)	

	3 友だちの意見と比較し、自分の予想が正しいか考える。	「動画で見た動きに近くて、北に動いていくんじゃないか」 提出されたカードと、自分の予想とを比較する。	提出したカードをお互いに見てもよいことを伝える。(伝える前から、各自カードを見ている)
まとめ	4 実際の予想進路と比較し、どうしてそのように予報されているのか考える。	「ほら、思った通りだ」 「全然違うじゃん」	tenki.jp のサイトにある台風の予想進路を見て、自分の考えと比較をするように伝える。

### (5) 考察

- ・実際の台風が9月末に発生したため、その台風の今後どう動き、3連休に影響があるのかなど、自分の身近な課題として取り組むことができた。
- ・「ふしぎがいっぱい」では旅行の計画が台風の接近によって延期になるという設定のため、夏休み中に実際の台風による影響を受けた児童もいたため、自分のこととして考えやすいのではないかと考えて設定した。
- ・NHK for school では、番組ページに関連動画のクリップが集められているため、各自の疑問に思ったことや知りたいことを、動画を通して見ることができる。
- ・個別に動画を視聴したり、資料を集めたりすることで、生徒個々の興味に応じて学習を深めていくことができた。その一方で、一つの資料から結論を出してしまうことや、すでにある「予想進路」を自分の予想としてしまうこともあった。
- ・今回は単元展開を、台風による被害の様子を先に学習し、そのような被害が出る台風の進路を予測することで、被害を減らすことが可能であるということを事前に学んだ。そのためか、予想が「進路」がどうなるかのみになってしまったが、実際に9月30日に発生した台風14号の進行に合わせて、学習を進めていくようにした。



### (6) 番組への要望

- ・番組そのものがやや古くなっているように感じるが、身近な課題として考えることができる内容なので、よいと思います。
- ・動画クリップが充実しており、一人一人の課題に応じて必要な資料が得られるところがよいと思います。